

ソフトウェアの知見を生かし DX新事業の創出を支援 板金加工向けアプリ 「FANDX」も投入 豆蔵デジタルHD

ITコンサルティングの豆蔵デジタルホールディングスは、祖業のソフトウェア工学を基盤に産業用ロボット領域や、DXを生かした収益モデルの再構築支援を加速している。傘下の豆蔵は板金加工をDX化する「FANDX（ファンデックス）」を投入した。全球規模でのサプライチェーンの破綻やデジタルシフトといった世界経済の前提が変わる状況下、豆蔵デジタルHDの中原徹也社長に産業界とにいかに伴走するかを聞いた。

「大手製造業や商社などで、社内向けに蓄積したデジタル技術を事業化する動きが顕著です。」

「企業には社内向けと外向けの二つのDXがある。社内向けはロボットによる製造の自動化がわかりやすい。事業だけでは成長が望みにくいということだ。DXの資産を活用して新事業の創出を模索する企業から、立ち上げるところまで広がった。今までにならぬ要請が目立って増えている」

「豆蔵デジタルHDといえば、RPAなどは、ロボティクスに経営資源を集中していまが通常だ。ところが当社が注力するのは産業用ロボットだ。2013年から海外メーカーと協業し、6軸の産業用ロボットをゼロから共同開発した。産ロボのSierも増えてきている」

「IT系システムインテグレーター（SIer）のロボティクスと協業し、6軸の産業用ロボットをゼロから共同開発した。産ロボのSierも増えてきている」

「業界団体による注高が過去最高を更新しました。」

「サプライチェーンの問題などに直面し、製造の国内回帰が進んでいる。企業の事業規模を問わず、人手不足の日本でロボットの需要が拡大するのは間違いない。当社にとって必要なのは間違いない。当社にとって必要な業務課題を見出すことができており、当該業務課題を解決すべし、22年末、『見積作成』『製造支援』『ダツ



豆蔵デジタルHD／豆蔵 中原社長

「これまでではオートモーティブ向けがほとんどだった」

「21年に板金加工の事業を強化しています。」

「板金加工業界に精通する人材を社外から複数登用しました。」

「これからは量より質を重視する経営として、2020年以降、事業投資を行い、AI・クラウド・ロボティクスといった事業領域への

「顧客から独立系の安心感を指摘されることが多々ある。創業からのDNAであるソフトウェア工学、ロボット工学を追求していくことで、オープンソースを駆使したサービス開発に力を注いでいく。それほど独立系オープンソース企業であることにはこだわりがある。技術者が成長できる環境を大事にした。企業利益はその結果得られるものだ」

株式会社 豆蔵デジタルホールディングス

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル34階

株式会社 豆蔵「FANDX」特設サイト

<https://fandx.jp/>

TEL 03-4446-6673

